

## 無名の勇者たち

へブライ人への手紙一章 32〜40節

他の人たちは、嘲られ、鞭打たれ、鎖につながれ、投獄されるという目に遭いました。彼らは石で打たれ、のこぎりで引かれ、剣で殺され、……欠乏し、苦しめられ、虐げられ……。 (36、37)

信仰の偉人たちの生涯が次々と紹介された最後に、著者は無名の勇者たちについても記します。注目すべきは、信仰によって死を免れ、大勝利を収めた者たちばかりではないということです。信仰によって、鞭打たれ、投獄され、石やのこぎり、剣などで殺された者たちもいたということです。結果は全く正反對ですが、いずれも信仰によって生き、信仰によって死んでいった人々でした。彼らは決して敗北者なのではありません。信仰をもって生きていても、苦しみが続き、あるいは無念の死を迎えることもありえます。むしろ、祈りが聞かれなくても、なおも神を信じ、天の故郷をひたすら目ざして生きる者たちこそ、真の信仰の勇者と言えるのではないのでしょうか。私たちも無名の勇者たちの一人として、信仰によって生き続ける者たちでありたいと願います。